



災害とLPGガス

最近全国各地で地震が頻発しています。今回は家庭用燃料である「LPGガス」について、勉強していきましょう。

LPGガスの概要

LPGガスは、家庭用燃料として使用されているエネルギーです。主成分がプロパンなので、「プロパンガス」としてなじみですね。LPGガスは発熱量が大きく、液状にして鋼製の容器(ボンベ)で貯蔵されます。また、ボンベを各家庭に設置しているので配管が短く、災害時の点検が容易です。阪神淡路大震災や新潟県中越地震でも、LPGガスは他のエネルギーに比べいち早く完全復旧を果たしています。LPGガスは「災害に強いエネルギー」と言うことができます。

LPGガスの性質

- ① 空気より重く、漏れると低い所や物かげにたまります。
- ② 空気と混合されたときに、火をつけると燃えます。
- ③ 本来は無色、無臭ですが、漏れた時わかるように玉ねぎが腐ったようなニオイをつけています。

容器バルブの閉め方



時計と同じ右回しです。

マイコンメーターの元栓の閉め方



90度回してください。

1 災害時の対策について

揺れを感じたら、まず自分の身を守ります。火の始末をするのは、揺れがおさまってからです。コンロやストーブはもちろん、タバコなど小さな火も見逃さないように。二次災害を防止するために、器具栓、ガス栓をすべて閉めて

⑤ 7気圧またはマイナス42度で液状になります。この液状でボンベに貯蔵されます。

④ 有害な一酸化炭素は含まれていません。しかし換気不足などの場合は一酸化炭素が発生するおそれがあります。

ください。
揺れの大きい時、自宅を離れて避難する時、ガスの臭いがした時、ガス漏れ警報器が鳴った時、津波が予測される時は、外へ出てLPGガスボンベのバルブを閉めましょう。

2 火災の場合

消防署に通報し、到着した消防隊にボンベの位置を知らせ、後の処理を頼んでください。通報した後、余裕があればボンベのバルブを閉めましょう。ボンベは非常に頑丈で、定期点検もしているうえ、安全弁という装置がついていますので、火災時でもそれ自体が爆発する可能性は非常に低いのですが、安全弁から噴出したガスが空気と混ざって、勢いよく炎が噴出する場合があります。なお無理だと感じたら必ず避難するようにしてください。

いつかやってくる大規模災害に対して、日ごろから備えておくことが重要です。今一度、ご自宅や職場のLPGガスの貯蔵場所に行き、点検しておくといいでしょ。



● 女性消防団の「ちょっといい話」 ●

〈第15回〉

- A：この前歯医者へ行った時に車椅子のおじいちゃんがおつてね。靴を履く時に自分で立とうとしよんやけど、見よったら危なっかしいけん思わず手を貸したんよ。でも、どうも要領がつかめんぞねえ…。
- B：そうそう。そんな時ってあるよねえ。手助けしてあげたいんやけど、どうしていいかわからん瞬間。しかも、女性消防団員として活動しよるけん、積極的に手助けしたい!と思うのに、空回りを恐れ、ためらってしまう…。
- A：あ、ほうよ!同じ女性消防団員のCさんが、介護のスペシャリストなんよ、彼女にいろいろ教えてもらおやー! ということで、Cさんに介護の講習をしてもらうことになりました。
- C：それじゃあまず車椅子に乗ってみましょう。
- A：じゃあ私が乗るからちょっと押してくれん?…うわっちょっと速すぎ!怖いわ。
- B：ごめんごめん。ついつい自分のペースで押してしもた。けっこう難しいねえ…。
- C：目線が低いし、自分の意思で動いていないから多少恐怖感があるかもね。介護する側とされる側にはズレがあ

- るから相手の立場にたつて介護することが必要ね。
- A：なるほど~。介護される側の立場にたつて、すごく重要なことなんやね。
- C：もし困ってる人を見かけたら「何かお手伝いすることはありませんか」って声をかけて相手の思いを汲み取るようにするといいですね。
- B：そうやね。今後も、困っている人に対して率先して声をかけて、少しでも役に立てるように頑張っていかなかんね。
- A：うん。またこういった機会を設けて、レベルアップしていこね!

